

歳を重ねるにつれ、病院で検査を受ける機会も増えてくることと思います。今回は、病院で良く行われるCT検査とMRI検査の違いについてお伝えいたします。

皆さんは、この二つの検査の違いをご存じでしょうか。我々が日々検査を行っているのも、CT検査とMRI検査を混同している患者さんは珍しくありません。どちらもドーナツ型の大きな機械に入り、寝た状態で検査を行います。機械の見た目も非常によく似ていることから違いが分からないのも納得

です。また、どちらの検査が良いのか、と疑問をもたれる方もみえます。CT、MRI検査、それぞれに得意・不得意があり、検査する部位や臓器、症状によって適応が変わってきます。

CTは「Computed Tomography＝コンピュータ断層診断」の略でX線を用いて体内の状態を断面像として描写する検査です。複数の断層写真をコンピュータ処理して画像を出力するため、断面像のみならず立体的な画像を得ることが出来ます。長所は、検査時間が比較的短く(5～10分程度)、骨や肺の構造描出が良好、急性期の脳出血の描出が良好、体内に金属がある場合でも撮影可能、等が挙げられます。短所は、放射線被ばくがある、血管

知の得

医療・介護

藤田医科大学七栗記念病院
診療放射線技師 石田 智久



⑫ CT検査？ MRI検査？

磁気共鳴画像診断」の略で強力な磁石と電波を用いて体内の状態を画像化する検査です。長所は、放射線被ばくがない、造影剤を使わず血管の撮影が可能、線被ばくがある、血管

急性期の脳梗塞の描出が良好、CTに比べ脊髄・四肢などの整形領域、子宮・卵巣や前立腺・精巣などの骨盤内領域の描出が良好、軟部組織の描出が良好、

どちらの検査が優れているというものはなく、どちらが適しているか、病院では皆さんの主治医が検査部位や症状によって最も適切な検査を選択しています。

一方、健康診断や人間ドックでCTやMRI検査を自身で選択する場合は希望の部位がどちらの検査に適しているか調べてみると良いでしょう。例えば、胸部レントゲンに写らない早期の肺がんや炎症の発見に適している検査はCTであり、無症候性脳梗塞、脳動脈瘤、脳腫瘍等の早期発見に適している検査はMRIです。

皆さんが検査を受ける際には、主治医や検査担当者に目的や内容に関する不安や疑問なことを確認すると良いでしょう。我々、医療従事者は皆さんが納得するまでお伝えいたします。

Iとは「Magnetic Resonance Imaging＝